



昭和大学横浜市北部病院 救急センター 救急診療科

- I. 研修科の長 門 倉 光 隆
- II. 臨床研修責任者 宮 本 和 幸
- III. 臨床研修指導医数（厚生労働省認定） 1名

IV. 認定医数・専門医数・指導医数

日本救急医学会専門医	1名
日本内科学会総合内科専門医	1名
日本集中治療医学会専門医	1名
日本救急医学会指導医	1名

V. 主な診療実績

救急外来受診者数（年間）	8,314件
救急車搬送台数（年間）	4,900件

VI. 診療科の特徴

当院は横浜市の二次救急拠点病院 A に位置付けられているため、全科に渡る二次救急に加え、心肺停止や消化管出血などの内因性ショックの患者も搬送されてきます。当科ではこれらの患者に対して、24時間体制で初期診療を行っています。研修医はこれらの診療を指導医と供に実務に当たり、急性期の診断・治療を行いながら学んでいただきます。

救急センターは、1名の専従医を中心として、院内応援医師・当直医により運営されています。

毎朝行われるカンファレンスには、救急センター医師と救急科研修医だけでなく、病棟担当の薬剤師、看護師など必要に応じ多職種参加で行っており、患者さんを多職種でサポートするチーム医療を学ぶことが可能です。

VII. 研修目標（学修目標）

A. 医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

1. 社会的使命と公衆衛生への寄与

社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、限りある資源や社会の変遷に配慮した公正な医療の提供及び公衆衛生の向上に努める。

2. 利他的な態度

患者の苦痛や不安の軽減と福利の向上を最優先し、患者の価値観や自己決定権を尊重する。

3. 人間性の尊重

患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って接する。

4. 自らを高める姿勢

自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める。

B. 資質・能力（学修到達目標）

1. 医学・医療における倫理性

診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する。

- ① 人間の尊厳を守り、生命の不可侵性を尊重する。



もくじ

- ② 患者のプライバシーに配慮し、守秘義務を果たす。
- ③ 倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づき対応する。
- ④ 利益相反を認識し、管理方針に準拠して対応する。
- ⑤ 診療、研究、教育の透明性を確保し、不正行為の防止に努める。

2. 医学知識と問題対応能力

最新の医学及び医療に関する知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題について、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。

- ① 頻度の高い症候について、適切な臨床推論のプロセスを経て、鑑別診断と初期対応を行う。
- ② 患者情報を収集し、最新の医学的知見に基づいて、患者の意向や生活の質に配慮した臨床決断を行う。
- ③ 保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、実行する。

3. 診療技能と患者ケア

臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・意向に配慮した診療を行う。

- ① 患者の健康状態に関する情報を、心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する。
- ② 患者の状態に合わせた、最適な治療を安全に実施する。
- ③ 診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成する。

4. コミュニケーション能力

患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築く。

- ① 適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで患者や家族に接する。
- ② 患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援する。
- ③ 患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する。

5. チーム医療の実践

医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。

- ① 医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する。
- ② チームの各構成員と情報を共有し、連携を図る。

6. 医療の質と安全の管理

患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。

- ① 医療の質と患者安全の重要性を理解し、それらの評価・改善に努める。
- ② 日常業務の一環として、報告・連絡・相談を実践する。
- ③ 医療事故等の予防と事後の対応を行う。
- ④ 医療従事者の健康管理（予防接種や針刺し事故への対応を含む。）を理解し、自らの健康管理に努める。

7. 社会における医療の実践

医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会と国際社会に貢献する。

- ① 保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する。
- ② 医療費の患者負担に配慮しつつ、健康保険、公費負担医療を適切に活用する。
- ③ 地域の健康問題やニーズを把握し、必要な対策を提案する。
- ④ 予防医療・保健・健康増進に努める。
- ⑤ 地域包括ケアシステムを理解し、その推進に貢献する。
- ⑥ 災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要に備える。



もくじ. 科学的探究

医学及び医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学及び医療の発展に寄与する。

- ① 医療上の疑問点を研究課題に変換する。
- ② 科学的研究方法を理解し、活用する。
- ③ 臨床研究や治験の意義を理解し、協力する。

9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

医療の質の向上のために省察し、他の医師・医療者と共に研鑽しながら、後進の育成にも携わり、生涯にわたって自律的に学び続ける。

- ① 急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収に努める。
- ② 同僚、後輩、医師以外の医療職と互いに教え、学びあう。
- ③ 国内外の政策や医学及び医療の最新動向（薬剤耐性菌やゲノム医療等を含む。）を把握する。

10. 当科特有の目標

救急領域の各種疾患の病態を把握し、実際に診療に携わることにより、救急診療において必須の知識と技術を修得する。

- ① 救急搬送患者に対して医療面接、情報収集ができる。同様に家族や救急隊からの情報収集の場合、医療機関からの連絡（転院）の際、でも適切な情報収集ができる。（態度・技能）
- ② バイタルサインを測定し、評価ができる。緊急性の有無の判断・報告ができる。（知識・技能）
- ③ 初期診療に必要な診察ができる。緊急検査のオーダーや実施、結果の評価ができる。（知識・技能）
- ④ 誰が見ても理解可能なカルテ記載ができる。症候別の鑑別診断を列記し、さらに必要な情報収集、診察・検査、を補うことができる。（知識・態度・技能）
- ⑤ BLS、ACLS、外傷初期診療、について説明でき実施できる。救急薬品の使用法をしり、使用できる（実際の使用は指導医の管理のもとで行う）。（知識・態度・技能）

C. 基本的診療業務

コンサルテーションや医療連携が可能な状況下で、以下の各領域において、単独で診療ができる。

1. 初期救急対応

緊急性の高い病態を有する患者の状態や緊急度を速やかに把握・診断し、必要時には応急処置や院内外の専門部門と連携ができる。

2. 病棟診療

急性期の患者を含む入院患者について、入院診療計画を作成し、患者の一般的・全身的な診療とケアを行い、次の専門診療科につなぐ診療ができる。

VIII. 研修方略

1. 当科で経験できる症候、疾病、病態、その他

別表 研修分野別マトリックス表を参照のこと。

2. 基本的診療業務

① 外来診療

24 時間体制の救急外来であり、救急車で搬送されてくる傷病者を担当し、指導医と供に診療していただきます。疾病により各科の専門医に相談・協力を要請することができます。



もくじ

② 入院診療

対応する科が確定している場合には、基本的には各科の入院となります。夜間休日に入院になった患者さんは、救急科で入院しますが、原則翌日には各診療科へ転科します。

研修医の先生方は①毎朝行われるカンファレンスで患者さんのプレゼンテーションを行う、②入院病歴要約の作成、③紹介状や対診依頼の記載などを通じて、症例提示、問題点抽出、カルテ記載、病診連携や他科への相談方法、などを指導医と供に行います。敗血症、DIC、多臓器不全、心肺蘇生後、などの症例を通して重症管理や医療連携も学んでいただきます。

③ 週間予定

時	月	火	水	木	金
8	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス
9	ER	ER	ER	ER	ER
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					

毎朝カンファレンスに参加、前日入院した患者状況について報告し、治療方針の確認・次の専門診療科への転科・退院について検討を行う。

3. その他

- ① コードブルー訓練 (2回/月程度)
- ② セミナー、学会参加、各種プロバイダー講習参加、学会や研究会・勉強会の発表、など (開催に合わせて適宜、強制ではない)。
- ③ BLS は研修最初の当院オリエンテーションに組み込まれており、プロバイダーをとっていただいております。

4. 当直

シフト制で勤務を行っており、月約5回の当直があります。

IX. 研修評価

研修目標の達成度については、診療科ローテーション終了時に研修医評価票Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを用いて、自己評価および指導医・メディカルスタッフによる評価を行う。(EPOC2使用)

研修医評価票は研修管理委員会に提出され、半年に1回、形成的評価(フィードバック)を行う。